兵庫県立長田高等学校　スーパーサイエンスハイスクール事業概要

VUCA 時代において主体的に自らを進化させられる人材育成プログラムの開発

開発型
新規５年間

＜目的＞先行きが不透明で予測が困難な状況において、主体的に課題を発見・解決することにより、新たなビジョンを創造し、社会を牽引する科学的人材の育成

成長する生徒の取組

みつける
現状を正しく把握し、適切な課題を発見する力

現状把握力
- 現在進められているｽﾏｰﾄｼﾃｨ構想から近未来の都市の形を学ぶ
- 災害の歴史やそれに向けた対策から神戸という都市が立地面で抱える課題を学ぶ

課題発見力
- 様々な専門家から多角的な視点と課題発見のｱﾌﾟﾛｰﾁについて学ぶ

＜世界で“みつける”＞
- 海外科学技術研修（台湾など）

すすめる
不確実で複雑な状況に立ち向かい、課題を解決する力

課題解決力
- 実際に課題解決につながる科学技術から数学や理科がどのように社会課題を解決しているか、その手法を学ぶ
- 専門家の実習から探究活動に必要なｽｷﾙを身につけ、課題設定から実践、分析まで、探究活動の流れを把握する

発想・創造力
- 大学の研究者から未知の事柄へのﾁｬﾚﾝｼﾞ精神を学ぶ
- ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ企業の研究者から世界で勝負するための創造力を学ぶ

＜世界で“すすめる”＞
- 海外共同研究
（羅東高級中学校など）

ひろげる
自ら情報を発信し、理解と共感を得る力

協働力
- 文理融合型のｸﾞﾙｰﾌﾟ探究の実施により、幅広い知識や異なる視点をもつﾒﾝﾊﾞｰとの生産的なﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝを促し、互いに理解し共感する力を育む

発信力
- 論理的文章の作成実習を通して、正しく的確な情報の伝え方を習得する
- ｻｲｴﾝｽｺﾐｭﾆｹｰﾀｰから実際に科学技術を社会に伝える手法について学び、小学生科学講座や探究解説動画作成で発信力を磨く

＜世界へ“ひろげる”＞
- 英語ﾎﾟｽﾀｰ作成
- 英語ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｺﾝﾃｽﾄ

活動を支える教員の取組

非認知能力の評価方法開発
生徒評価とﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ評価から非認知能力の評価指標を大学と連携して開発する

科学倫理指導力
校内研修や研究倫理指導委員会の設置により科学倫理の指導方法を確立する

分野横断学習のｶﾘｷｭﾗﾑ開発
「理数探究基礎」等において、数学、情報、理科４分野横断学習ｶﾘｷｭﾗﾑを開発する

外部活動への参加の推進
国内外での学会発表、科学ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ、ﾊﾘｰﾒｯｾﾙ国際科学学校などへの参加を推進する

将来的なビジョン

- **生徒の広がり**　人文・数理探究類型生徒　→　理系生徒、科学系部活動　→　普通科全員へ
- **実施形態の広がり**　理数探究基礎、学校設定科目「探究」　→　普通科全員の総合的な探究の時間　→　数学・理科等の通常科目へ
- **指導者の広がり**　探究担当教員　→　生徒と共に学ぶ探究指導体制の整備　→　教科専門によらない探究担当教員へ